

## 千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子(案)に対する主な市民意見

意見募集期間：令和4年5月16日～6月15日

意見提出者11名

	主な意見
意見数の多いもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の視点が小さくしか取り上げられていない。生物多様性を考慮した記載の検討を。子ども達から生物多様性保全が提案されたことを大人は重く受け止めるべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティも大事だが、家族や子ども達と川遊びができる親水エリアの創出も大切。</li> <li>・多自然型河川づくりをできるところだけで行うのではなく、河川全体の計画に反映できるように、部署を跨いだ連携の検討を。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外周に設けられていた素掘り側溝や植栽の起伏等、「雨庭」の機能を再構築する必要がある。</li> <li>・トイレに関して、清潔感を重視してほしい。市民もきれいに利用する気持ちを。</li> <li>・阪神・淡路大震災の際、街区公園の防火機能が評価されていた。</li> <li>・公園維持管理方法は、樹木、居住データ、利用率を見て心地よい場所にすべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち葉やムクドリ等への苦情対応もあり、強剪定、高木の伐採だけでなく、改善の方法、手入れの方法について再検討するべき。</li> <li>・樹木剪定の工夫を行う。コスト削減というよりは樹木の質を高め花木を楽しむ。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近建てられる一戸建ての家には土がなく、人工芝が置かれている。</li> <li>・敷地に緑を植える家庭や、庭木を植える建築業者へのインセンティブが必要。</li> <li>・台風の時に大木が道に倒れたり、折れた枝がベランダの屋根を壊したという事例を聞く。</li> <li>・一定の規定をして、所有者の日頃の努力もできるように考えていく必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業の普及のための積極的な支援や働きかけを農政課とも連携しながら進めてほしい。</li> <li>・農地や土手における除草剤使用が排水溝の詰まり、泥の堆積を増やし、冠水の原因になる。除草剤の多用について、規制も必要に思う。涵養機能等を保つあり方にも視点を。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷津田や森林の荒廃、アライグマやイノシシ被害の状況にも触れる必要がある。</li> <li>・再生エネルギー拡大の旗印に緑地の削減が懸念される。ソーパネル化はなんらかの制約を。</li> <li>・谷津は貴重な場所。耕作放棄が進み今の状態になった。谷津田が保全される方策を。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑は質が問題で、質について焦点をあて、その回復と保全のために対応する必要がある。</li> <li>・地域の人ができることは地域に任せ、出来ないことを公園事務所がやるような割切りが必要。</li> <li>・環境保全に特化した人材育成と支援を。人材育成を市が担うことで問題を補完できないか。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑被率が現状維持となっているが、本当にそれでよいか。増やしていく方向でなくて良いか。</li> <li>・緑と水辺のまちづくり活動の表彰数は結果であり、目指すものではないのではないか。</li> <li>・大高正人(建築家・都市計画課)の県文化会館周辺の緑、県立美術館とポートタワー周辺の緑のようなまちと一体となった品格を上げるやり方がある。</li> </ul>